

Ⅲ 要 約

1. 平成元年11月17日に沖縄県西表島船浦の河口域より採取・分離した西表島産ユビナガチピウムシ（仮称）は被甲長81.0～97.4 μm 、甲高48.1～60.3 μm の大きさで、ユビナガチピウムシに酷似し、ほぼ同じ大きさである。

この西表島産ユビナガチピウムシについて、温度別、塩分濃度別及び餌料別の培養試験を実施した。

【温度別】50%海水でナンノクロロプシスを餌料として、20℃、25℃及び30℃の3区で実施した結果、高温ほどよく増殖し、30℃で最もよく増殖することがわかった。

【塩分濃度別】25℃でナンノクロロプシスを餌料として、海水濃度を10～100%の範囲で10段階に分けて実施した結果、かなり広塩性ではあるが、低塩分濃度ほどよく増殖し、最適濃度は10%海水付近にあることがわかった。

【餌料別】50%海水で25℃で、ナンノクロロプシス・濃縮淡水クロレラ・パン酵母・人工プランクトン・配合飼料・魚粉・醤油粕・米糠・黒砂糖・海藻粉・酢酸ナトリウム・ビタミンB₁₂の12種類の餌料を用いて密封静置培養で実施した結果、醤油粕が最もよく増殖し、人工プランクトンもかなり増殖した。

2. 西表島産S型ワムシを3～4日間の植え継ぎ方式により培養したところ、ナンノクロロプシスとイーストを餌料として塩分量は28～30%、水温は34～35℃でよく増殖することが明らかとなった。
3. 西表島産S型ワムシのミナミクロダイ仔魚に対する餌料効果は、S型ワムシのそれに相当することが明らかとなった。また、35℃で培養した西表島産S型ワムシを20℃の仔魚飼育水中へ投餌しても、ワムシの沈下、異常等は認められなかった。

Ⅵ. 今後の課題

1. 西表島産ユビナガチピウムシの大量培養技術の確立。
2. 西表島産ユビナガチピウムシの餌料効果の検討。